

JAいわて平泉 コミュニティー紙 2016秋 第10号

そ~じゃ*い~じゃ

So~JA*E~JA

消費者×生産者×地域×JAをつなぐコミュニティー紙



5/12 田植え体験



9/16 かかし設置



10/4 稲刈り体験



10/21 ライスセンター見学

ぼくらの田んぼで お米ができたぞ〜!

JAいわて平泉管内には学習田で稲作について体験学習を行っている小学校が数多くあります。一関市立巖美小学校では田植え、かかし作り、稲刈り体験、籾乾燥調製施設の見学を行いお米ができるまでの一連の作業について理解を深めることができました。また、体験を通して農業の大変さや楽しさを感じ、食べることへの感謝の気持ちを育みました。



JAいわて平泉
マスコットキャラクター
このみん

JAいわて平泉

いわて平泉農業協同組合
〒021-0027 岩手県一関市竹山町 7-1 ☎0191-23-3006(代)



のマークが付いた上記写真にスマートフォンをかざすと、この写真の動画が見られます。

「App Store」または「Google Play (Play ストア)」から専用アプリ「marcs (マークス)」をダウンロード(無料)します。アプリ起動後、写真にかざすと動画が見られます。

〈動画配信期間 H28.11.6~H29.1.5〉
※一部端末では正常に動作しない場合がございます。

第41回「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール

～JAIわて平泉審査会～



審査結果

JAGグループは「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、「ごはん・お米とわたし作文・図画コンクール」を実施しています。これからの食・農を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作り上げてきた稲作農業全般についての学びを深めてもらうことが狙いです。子どもたちが、毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米に関する発見や思い出、考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現しています。今回は、JAIわて平泉管内で応募のあった作品の中から入賞作品と受賞者の皆さんをご紹介します。

みんな上手に書けたね!



図画部門
最優秀賞



一関市立藤沢小学校2年
佐々木 琉花さん

おかわりをして元氣いっぱい

ご飯を食べている時、お母さんに「顔にご飯粒がついているよ」と言われることがあります。その時写真を撮ってもらい、写真を見ながら書きました。

作文部門
最優秀賞
小学生の部



一関市立立根東小学校5年
山本 彩瑛さん

お米作りをしてみよう

家のお米は、イモチ子ちゃんになってしまったけれど、バケツ稲はおいしくなってほしいと思いついて作文を書きました。賞に入ったらいいなと思つていたら、本当に入賞したのでとてもうれしいです。

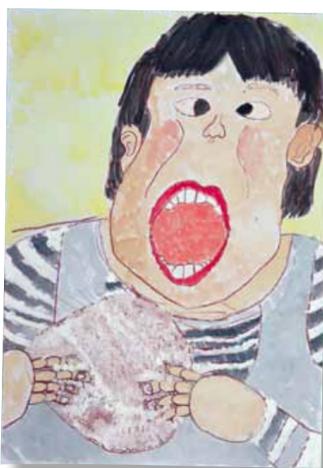
作文部門
最優秀賞
中学生の部



一関第一高等学校附属中学校2年
千葉 菜央さん

スーパー食材

このコンクールには初めての出品でしたが、最優秀賞という大きな賞をいただいたうれしいです。今までの経験の中からお米の大切さを伝えたいと思いつきました。これからもお米の大切さを忘れずにご飯を食べていきたいです。



図画部門
優良賞



一関市立舞川小学校3年
佐藤 楓月さん

おにぎりを食べるわたし

「おにぎりを食べるわたし」の絵で特に頑張ったことは、おにぎりのつぶを一つ一つ書くことです。同じ向きにならないように気をつけて書きました。入賞できて、とてもうれしいです。



図画部門
優良賞



一関市立藤沢小学校1年
玉澤 歩風乃さん

ピクニックでおにぎり

家族で出かけた時、お母さんがにぎってくれたおにぎりを公園で食べた時の様子を書きました。みんなで外で食べるおにぎりはとてもおいしかったです。おにぎりの具は梅干しが一番好きです。

今年は、学校でバケツ稲をやりました。家の稲は病気にかかってしまい、お米がとれる量が、分りません。でもバケツ稲は、なんとかお米がしゅわしゅわできそうです。しゅわしゅわは、あと、カ月ぐらいいいよ。私には、田んぼには、あまり行かないのですが、おじいさんと稲の話などをします。それは春にわたしがつたつて植えた稲はどうか気になったからです。それに、大人になったら、手つだいをするからです。田植えのときは、はこの家の田んぼの田植えもしました。田植えは、機械でやっているの、私は植えなおしをした。田植えも終わり、いよいよ稲の成長するじきです。学校のバケツ稲も成長してきました。夏休みもいよいよ近づいてきました。バケツ稲は家に持ちかえって、世話をお願いします。家の田んぼもそうですが、水をからさないように気を付けます。しかし、たまにわすれてしまうこともあり、その時は、おじいさんや、お父さんが教えてくれました。そのおかげで、ぐんぐん稲は育ちました。夏休みも終わり、二学期も始まりました。家の稲もバケツ稲も、しゅわしゅわの時期が近くなって来たのではないかと感じます。そう思っていたら、おじいさんが、「今年は、米が病気にかかったから、米がとれるかは、わからないな」と、言っていたので、本当に心配になりました。その時に来たのが台風です。とくに、台風10号の時は、とくに心配になりました。なぜそんなに心配になったかという、昨年の台風のいきさつは、はとこの家の稲がたおれてしまったからです。今回の台風も、もしかしてたおれてしまっているのではないかと思っていたからです。さらに心配になったのは、川のぞう水です。私の家の田んぼは川のそばにあるからです。もしぞう水して、稲がたおれたらどうしようと思つたからです。台風もすぎりましたが、すっかり安心はできません。すぐに、またがう台風がきてしまい、稲がたおれてしまつたこともあります。また、風が強い日は、風で稲がたおれてしまつたのではないかと心配です。そんなことを思っているうちに、稲にもほがつきはじめました。無事にしゅわしゅわできればいいと思います。わたしがいつも食べているお米は、おじいさんたちががらばつて作ったお米なんだなと思つきました。今年もおいしいお米がたくさん食べたいです。

私は、生まれた時から祖父と父が作ったお米を食べています。今でも朝食は必ずご飯です。学校に持つていく弁当の中身もご飯がほとんどです。ご飯はおかずを選ばない優れたものだと思います。和食、洋食、中華料理、何にでも合います。また、パンや餅などに変化させることも出来ます。こんな優れた食材が他に存在するでしょうか。もちろんパンや麺類が食べたくなる時はありますが、最終的に食べたくなるのは、ご飯です。米の消費量は減少傾向にあるそうなんです。私は、私のご飯が好きなので、おそらく今後米を主食とすると思います。稲作をする若者も減少傾向にあり、次世代の担い手が不足している事も事実です。実際に、私の住んでいる平泉町でも父くらいの年代の人が稲作をしていられる光景はあまり見ることがないかもしれません。祖父も父も会社に勤めながら、農家としてお米を育てています。父は私が生まれる前から「稲まき」2代かき「草刈り」「稲刈り」など、春から秋まで一生懸命お米を育てていたそうです。そのため、当時の父は近所の方々から「いつもえらいね」とよく言われていたそうです。最近では、町内の父と同世代の友達にも声をかけて一緒に田植えや稲刈りをする事もありますが、小学校の頃は、五月のゴールデンウィークは田植え、九月の連休は稲刈りのため、家族で旅行に行くことが出来ます。つまらなく感じた時もありました。しかし、小学5年生の時に「田植え」と「稲刈り」を授業で体験して、お米ができるまでにはこんなに大変な作業があるのだということを感じました。家ではいつでも離れたところから見ていただけで、それぞれの苦労なから、

知る機会がありませんでした。実際にやってみると、泥に足がどられてうまく歩けないし、前かがみの姿勢で作業を続けているため、腰は痛くなり、足も重くなって、帰る頃にはぐったりしてしまいました。家に帰つてその体験のことを話していると、祖父も父も「そのくらい大変だから、食べる時により美味しく感じるんだと思うよ」と話していました。植え終わった学校の田んぼを時々見てみました。梅雨時期の雨にも、台風の雨にも、真夏の太陽にも耐え抜いた稲は、立派にすくすくと成長していました。その光景を見るたび嬉しくて、祖父や父の気持ちがなんとなく分かって来ます。小学校の小さな田んぼを友達とみながら作業しても大変だったのに、大きな田んぼを祖父と父は会社が休みの日に作業してしまつたのですから驚きます。もう一つ、お米の大切さに気が付いた出来事があります。それは東日本大震災の時のことです。家には幸いお米だけはあったため、知人の家へ鍋で炊いたご飯をおにぎりにして届けたことがありました。すごく感謝され、今でもその方は「あの時のおにぎりは今でも一番美味しかった」と言ってくれます。また、父も母もおにぎりを沿岸に住んでいる方々へ届けに行つたりもしていました。皆さん、涙を流して喜んでくださったそうです。お米は私達にとって安心感を与えるものであることを感じた出来事でした。そんな優れた食材を作っている祖父と父を尊敬しています。そしてこのお米を私達は次世代へと伝えていかなければならないし、ご飯を食べることに日々感謝することが大切だと思います。

学校賞
両校は、第41回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール応募において、積極的に取り組み、多くの作品を出品していただきました。



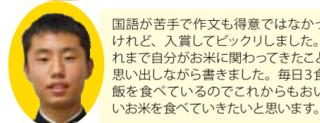
毎年、夏休みの課題として数種類のテーマから生徒が自分で選び取り組みをしています。自分の家族や地域でのお米作りの様子を見たり、資料を調べたりして作文にまとめたことで生徒たちが農業との関わりについて考える良いきっかけになったのではないかと思います。今後も農業・食に対する感謝の気持ちを大事にしてほしいと思います。

審査講評
図画審査員
アートセンターキューブ 代表
及川 武芳氏

子供たちが、「ごはん・お米」との関係や体験を一生懸命に絵に描こうとしている姿勢を感じ、うれしく思いました。最優秀賞の佐々木さんの作品は、日常の生活での1コマをよくとらえ、ご飯のおいしさを上手にまとめています。優秀賞の玉澤さんの作品は、

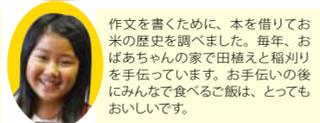
色彩がきれいで、友達とのピクニックの楽しさが伝わってきます。優良賞の佐藤さんの作品は、画面一枚におにぎりを食べる自分を描く構図の良さ、観察力に感心させられました。各校で直接ご指導いただいている先生方に感謝し、来年の応募にも期待します。

感謝を伝える
一関第一高等学校附属中学校
2年 小野寺 剣牙さん



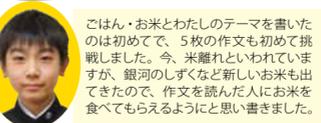
国語が苦手な作文も得意ではなかったけれど、入賞してビックリしました。これまで自分がお米に関わってきたことを思い出しながら書きました。毎日3食ご飯を食べているのでこれからもおいしいお米を食べていきたいです。

大好きなお米
一関市立一関小学校
4年 平沢 稷澄さん



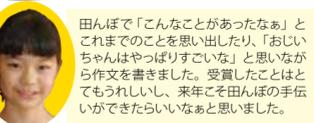
作文を書くために、本を借りてお米の歴史を調べました。毎年、おばあちゃんの家で田植えと稲刈りを手伝っています。お手伝いの後にみんなで食べるご飯は、とってもおいしいです。

いつもそこにあるもの
一関第一高等学校附属中学校
1年 小野寺 海斗さん



ごはん・お米とわたしのテーマを書いたのは初めてで、5枚の作文も初めて挑戦しました。今、米離れといわれていますが、銀河のしずくなど新しいお米も出てきたので、作文を読んだ人にお米を食べてもらえるようにと思いつきました。

大変なお米作り
一関市立立根東小学校
5年 小山 希来さん



田んぼで「こんなことがあったなあ」とこれまでのことを思い出したり、「おいしいちゃんはやっぱりすごいな」と思いついて作文を書きました。受賞したこととともううれしいし、来年こそ田んぼの手伝いができたらいいなと思いました。

審査講評
作文審査員
岩手日日新聞社 編集局顧問
小岩 聖二氏

毎日何気なく口にしているお米。実は、農家の人たちが苦勞と愛情を重ねて育て上げた日本を代表する一級の食品であることが、みなさんの作文を通じてひしひしと

伝わってきます。日本の食を大切に心、日本の食を支えるかけがえのない農業を大切に心をつつまでも大切にしていればと願っています。

農家のサポートができるように 頑張ります

JAIわて平泉 千厩農機センター 菅原 智也さん(20)

未来を担う JAの笑顔

お客様が笑顔になれる対応を 心がけます

JAIわて平泉 平泉支店 三浦 郁美さん(19)

今年JAに入組した智也さんは、千厩農機センターで農業機械の修理や整備などの仕事をしています。「多種多様な農業機械なのでまだ分からないことが多くありますが、先輩に教わりながら仕事をしています」と日々の業務を進める智也さん。「農家の皆さんが仕事をスムーズにできるようにこれからも迅速な対応を心掛けていきます」と農家の気持ちに立って仕事を進めます。

中学からバレーボールをしていて、今はJAのチームでプレーを続ける智也さん。「バレーも仕事もチームプレーという点は同じ。自分の仕事をしっかりと行い、先輩のサポートもできるように頑張ります」と意気込みます。



JAIわて平泉に今年入組した三浦郁美さんは、平泉支店に勤務し信用窓口の担当として貯金の入出金や口座開設などをしています。来店されるお客様に合わせた対応を心掛け、笑顔で親切・丁寧な対応をしています。「自分の担当する仕事だけでなく、周囲に目を向け臨機応変に対応ができるようになりたい」と次の目標に向かい努力を重ねる郁美さん。

バレーボール観戦が好きで、パナソニックパンサーズのファン。一関で開催されたVリーグを観戦した他、パンサーズの活動拠点である大阪で開催されたファン感謝デーに参加するなど、休日を楽しんでいます。「今後も試合観戦や、イベントがあれば参加したい」と笑顔を見せます。

JAバンク岩手

ウィンターキャンペーン 2016

～冬のうれしい発見～

キャンペーン期間
平成28年
11月1日(火)～
12月30日(金)



新たに定期貯金または定期積金を
10万円以上ご成約された方に
10 プレゼント

オリジナルパッケージ
ポッキーチョコレート
当JA 1,200名

または、
コインケース
当JA 1,200名

新たに定期貯金または定期積金を
20万円以上ご成約された方に
20 プレゼント

今年デビューの
県産米新品種
銀河のしずく(3合パック)
当JA 1,482名

または、
すき焼き用
牛肉とタレ
のセット
当JA 28名



銀河のしずく
Ginga no Shizuku

○金利上乗せ(適用金利店頭金利+0.1%上乗せ)について
お預入れは個人の方に限らせていただきます。定期貯金について新規お預入れ10万円以上の自動継続定期貯金で、ご契約(預入)期間は1年とします。金利の上乗せは初回満期日までとし、自動継続以降は、継続日における店頭表示金利が適用されます。(金利情勢の変化などにより、金利が変更になる場合がございます。また、取り扱いを中止させていただくことがあります)・満期前にお解約された場合は、JA所定の中途解約利率を適用いたします。

○先着プレゼントについて
・新たに定期貯金または定期積金を10万円以上ご成約された方、定期貯金のご継続の場合は10万円以上ご成約された方に先着順で「ちよりすオリジナルパッケージポッキーチョコレート」または「ちよりすコインケース」をプレゼントします。・新たに定期貯金または定期積金を20万円以上ご成約された方、定期貯金のご継続の場合は20万円以上ご成約された方に先着順で「銀河のしずく(3合パック)期間中1人1個まで」または「ちよりすランチセット」(※)をプレゼントします。・個人の方に限らせていただきます。・定期貯金の預入期間は1年間、定期積金の契約期間は1年以上とします。・賞品がなくなり次第終了とさせていただきます。※この製品はJAバンクと農サクラクレバスとのコラボ商品です。「CRAY-PAS」は農サクラクレバスの商標です。

○抽選プレゼントについて
・新たに定期貯金または定期積金を10万円以上ご成約された方、定期貯金のご継続の場合は10万円以上ご成約された方に抽選で「いわて牛すき焼き」または「プレミアムりんご詰合せ」をプレゼントします。・新規または増額10万円ごとに1口となります。ただし、1契約につき最高10口となります。・個人の方に限らせていただきます。・定期貯金の預入期間は1年間、定期積金の契約期間は1年以上とします。・抽選/平成29年11月に厳正なる抽選により当選者を決定いたします。・当選発表/当選発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。(賞品は平成29年12月末日までにお届けする予定です)・ご注意/抽選時点で当該定期貯金または定期積金を解約している場合は、当該権利を失います。賞品の交換・返金・返品等には応じかねますので、予めご了承ください。

詳しくは、お近くのJA各支店までお問い合わせください。

りんご収穫 感謝祭 開催のお知らせ



管内で収穫した品質・食味とも良好な、贈答用りんご(サンふじ、王林など)をはじめ、新米や野菜なども販売します。

11月20日(日) 午前10時～午後2時
JAIわて平泉 東部営農振興センター
(一関市大東町摺沢字菅生前61-3)

12月4日(日) 午前10時～午後2時
JAIわて平泉 西部園芸センター
(一関市花泉町金沢字有壁沢19-4)

お問い合わせは JA園芸課まで
☎ 23-9173 (西部) または 75-3312 (東部)



Cafe Dining 団栗

料理人である伯父の姿を見て料理人に憧れ、東京の学校給食事業を行う会社に就職し、働きながら調理師免許を取得しました。この頃から、「いつか自分の店をもちたい」と思うようになり、念願だった自分の店を2016年6月にオープンしました。地元の食材をたくさん使用したメニューと働く女性がほっとできる空間づくりにこだわっている団栗。大人でもお子様ランチを食べたいという声に応えた“大人のお子様ランチ”は、いわて門崎丑と館ヶ森高原豚の合いびき肉を使用したハンバーグやサラダなど数種類の料理を盛り付け、見た目も美しく最後の一口まで食べる人を飽きさせないプレートです。ランチプレートはハンバーグソースを選ぶことができる他、トッピングを変更したり、追加したりすることができます。お客様の「おいしかったよ」「また来ます」などの言葉を励みに頑張っているオーナー。ぜひ、お立ち寄りください。



「大人のお子様ランチ団栗ブラウン」門崎丑を使用したデミグラスソース(スープ・ドリンク・ミニデザート付き)1,200円(税込)



一関市字宇南1-5 TEL 050-1183-3954
営 ランチ11:30～15:00 デイナー17:00～20:00(火～木は予約制)
休 月曜日(祝日の場合は翌日)

KOSHERU こしえる

組合員向けに発行しておりますJAの広報誌「KOSHERU(こしえる)」は、JAホームページにてご覧いただけます。地元の農畜産物など、盛りだくさんの情報をぜひご覧ください。



http://www.ja-iwatehiraizumi.or.jp
E-mail:kosheru@ja-iwatehiraizumi.or.jp

プレゼント!

「SO-JA*E-JA」をお読みになってのご意見・ご感想をお寄せください。お寄せいただいた方の中から抽選で10名様に図書カード(1000円分)を進呈いたします。なお、当選者はJA広報誌「こしえる」平成29年1月号にて発表いたします。

応募方法

官製ハガキにご意見・ご感想と、住所・氏名・年齢・連絡先電話番号を明記の上、下記宛先まで応募ください。

応募締め切り 平成28年11月末
〒021-0027 一関市竹山町7-1 JAIわて平泉 総合企画課

プレートをご注文いただいたお客様に限り 手作りシャーベットサービス

Cafe Dining 団栗
一関市字宇南1-5 TEL 050-1183-3954

※1枚につき、1名様まで、1回限り有効です。
※このクーポンは注文時にお渡しください。
有効期限/2017年2月末まで

使用上の注意
□このクーポンはご自分で切り取ってから使用してください。
□本券は、他券との併用はできません。
□本券は、換金できません。
□諸般の事情により、クーポンの利用ができなくなる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

JAIわて平泉 So-JA*E-JA